

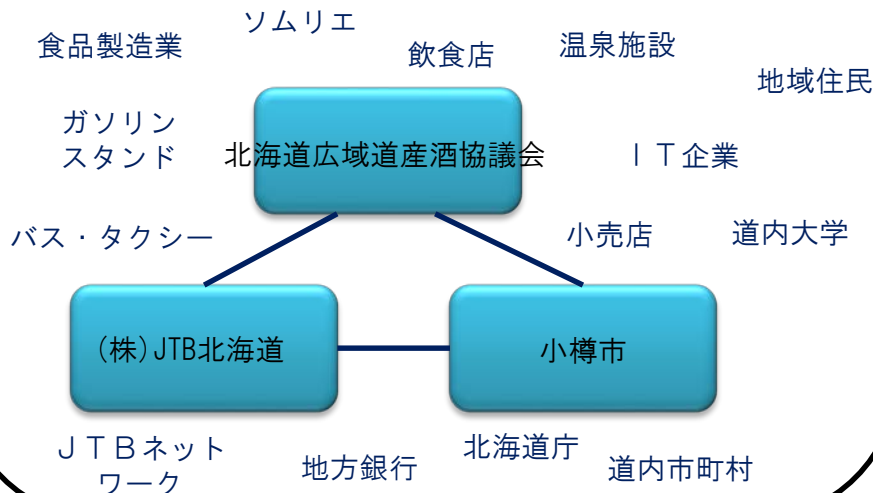
# (株)JTB北海道・北海道広域道産酒協議会・小樽市地域活性化モデルケース ～地域と世界を結ぶ日本の国際交流手形～「パ酒ポート」

【概要】2011年本来競合である清酒、ワイナリー、ビール、ウイスキーを連携させ、北海道広域道産酒を設立。協議会の目的は「道産酒」×「食」×「ツーリズム」をコラボレートさせ、道産酒の消費拡大、および「道産酒」を通じて人々の交流を促進させながら地域の活性化を図ることである。その手段の1つである、異業種連携の象徴ともとれる酒と食のガイドブック「パ酒ポート」、ネットワークを活用し、①地域振興・交流人口の拡大②6次産業化③海外販路拡大・国際化を実施する。これは道産酒を核としながら様々な業種にまたがる地域経済の活性化を図るものであり、異業種連携した地域活性化の成功モデルとして全国的にも類がなく、先導的であると言える。

「パ酒ポート事業」は観光庁の酒蔵ツーリズム推進協議会連携プロジェクト認定を始め、日本酒造組合中央会や酒蔵ツーリズム推進協議会においても成功事例として一定の評価を得ており、北海道外からも関心が多数寄せられている。

地域ごとの資源と組み合わせ、またその地域に合ったテーマを設定することで、道内他地域にも十分応用が可能であり、全国への波及効果が期待できる。将来的には、酒造所を始めとした食・観光に携わる企業が都道府県の域を超えて連携し、「パ酒ポート」が酒を基軸として全国をつないだ地域活性化のムーブメントとなり日本全国での経済波及効果に繋がることを目指したい。

地域の企業、行政、地域住民、大学、金融機関など地域の多様なステークホルダーとの連携により、**道産酒を基軸とした北海道の食・観光振興**を展開していくことを目的とし、異業種と連携した新しい①**地域振興・交流人口の拡大**②**6次産業化**③**海外販路拡大・国際化**を通じて、道内酒造メーカーはもとより、**地域経済の主要な担い手である中小企業・小規模事業者が活性化し、新たな生産活動の誘発、雇用創出、需要創出などさらなる地域経済の好循環のモデルケース**となることを目指す。



## 異業種連携した 地域活性の成功モデル

お酒を核としながら異業種を連携させ地域活性化・経済波及効果を高める。

- ①他エリアでの展開が可能 (例:鹿児島版・北海道東北連携版等)
- ②他の地域産品での展開が可能 (例:スイーツ・郷土料理等)

中央省庁との連携  
政策パッケージ情報  
継続したコンサルティングを依頼